

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2024 No.581

5 / 1

JART情報
<https://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



第76回診療放射線技師 国家試験問題の分析結果

診療放射線技師国家試験問題評価委員会は、2024年2月15日(木)に実施された第76回診療放射線技師国家試験(以下、本試験)を評価することを目的として、委員会会議を2024年2月23日(金・祝)に開催しました。本試験が診療放射線技師の基本的知識を適切に判断する内容であるかを検討し、その結果を踏まえて、本会から答申書を厚生労働省医政局医事課試験免許室に提出しました。

なお、厚生労働省のホームページによると、本試験の合格者は受験者数3,565人に対し合格者2,834人で、合格率は79.5%でした。

診療放射線技師国家試験問題評価委員会 構成員(順不同)
○武藤 裕衣、丸山 智之、木暮 陽介、鈴木 正広、奥田 圭二、西澤 徹

以下、検討結果を示します。

1. 総評

本試験は、多くの至適問題が見受けられ一定の評価を認め

る。また例年同様に深い知識が必要であり、良い傾向と考える。本試験は前回と比べ、1問当たりの文章量が多く、専門知識とともに読解力を必要とする設問が増加していたが、設問や選択肢について十分に校閲をされていると認められた。

診療放射線技師の業務範囲は拡大されており、本試験のように200の問題数では、95単位のカリキュラムの修得を効果的に判断することは難しいと考えるため、問題数の増加が必要であると考ええる。

2. 今後のより良い診療放射線技師国家試験のための提案

- 診療放射線技師を取り巻く状況の変化および実態を踏まえ、診療放射線技師として必要な基本的な事項から出題することに、引き続き留意する必要があると考える。
- 選択肢が長文となる場合、文脈により異なる解釈が可能とならないよう留意する必要があると考える。
- 診療放射線技師の業務において、実際の臨床現場を設定した設問の出題、手術支援3次元画像に関する出題が必要と考える。

(次ページへ続く→)

論文を投稿される皆さまへ大切なお知らせ

責任著者のメールアドレス公開について

このたび、JART誌に投稿された論文について、論文が採択され公開する場合、著者のメールアドレスを論文内に掲載することに致しました。これは、学術論文は広く公開され、読者が著者に質問できる環境をつくるべきであり、著者のメールアドレスを公開することにより、著者ならびに読者のさらなる学術知識の向上や、その後の研究発展の可能性を大きく広げることにつながると判断したためです。

なお、責任著者と筆頭著者が異なる場合には、責任著者のメールアドレスを掲載致します。本対応は順次行っていく予定です。今後は、論文が投稿された時点で、メールアドレスの公開についてご承諾いただいたものと判断して進めさせていただきます。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

INFORMATION

○現状の診療放射線技師の業務などを診療放射線技師国家試験の問題に反映しやすくするため、構成する試験委員について、診療放射線技師の資格を有した試験委員の増員が必要と考える。

3. 本試験に関する評価

午前40 2・3の複数解、午前66 2・5の複数解、午前72

4・5の複数解と考える。

4. その他の事項について

試験開始前の説明や電子機器などの取り扱いについて統一的に実施されるようになり、公平性・公正性を確保した上で適切に実施されていた。

(診療放射線技師国家試験問題評価委員会 委員長 武藤 裕衣)

第45回「医療放射線の安全利用」フォーラム 開催される (Web開催)

2024年2月10日(土)、第45回「医療放射線の安全利用」フォーラムがWebで開催されました。主催者は医療放射線防護連絡協議会[※]であり、本会も加盟しております。

今回のテーマは「タスクシフト」にフォーカスが当てられました。現在、診療放射線技師法の改正などにより、放射線科医から診療放射線技師へのタスクシフティングが具体的に進められています。これを受け、日本医学放射線学会などの放射線医学関連学会と日本診療放射線技師会が共同で、円滑なタスクシフティングのためのガイドラインを作成しました。今回、この中から、患者と放射線診療従事者の被ばく管理に関係する部分について抽出し、臨床現場での実運用での注意点について検討しました。

基調講演として「放射線診療におけるタスクシフト関係ガイドラインの概略紹介」について、木戸晶先生(富山大学)がご講演されました。

続くパネル討論では、テーマを「タスクシフト実施と放射線安全」と題し、1.「核医学における留意点」東直樹氏(東海医療技術専門学校)、2.「IVRにおける留意点」坂本肇氏

(順天堂大学)、3.「放射線治療における留意点」霜村康平氏(京都医療科学大学)、4.「日本診療放射線技師会としての取り組み」富田博信氏(帝京大学)が講演され、その後、総合討論を行いました。

※医療放射線防護連絡協議会

日本では、ICRP (International Commission on Radiological Protection: 国際放射線防護委員会) の勧告に従って、医療被ばく線量や患者の介護をする家族の医療被ばくなどの問題に取り組んでいます。一方アメリカでは、NCRP (National Council of Radiation Protection and Measurements: 米国放射線防護審議会) という組織があり、ICRPに積極的に意見を出しています。日本でも、NCRPに当たる組織をつくり、ICRPに日本の立場を積極的にアピールし、かつICRPに派遣する委員の活動を支援する必要があります。医療放射線防護連絡協議会は、医療分野における放射線(電離放射線および非電離放射線を含む)防護に関して、関連する学会・団体などが相互に情報交換と密接な連絡交流などを行うことにより、医療における放射線防護・安全管理の向上に寄与することを目的としています。

2023年度 第2回JART-JSRT懇談会 開催される (ハイブリッド開催)

2024年2月16日(金)午後4時より、本会(JART)と日本放射線技術学会(JSRT)との2023年度第2回定期懇談会が開催されました。この懇談会は年に2回、JARTとJSRTが事業連携についての協議や情報共有のために定期的に開催しており、これまで毎年、冬季はJART主催で東京において開催されてきました。

本会からは上田克彦会長、江藤芳浩副会長、児玉直樹副会長、江端清和業務執行理事、園田優理事(総務担当)、川守田龍理事(学術担当)、堀住雄策事務局長の7人が、JSRTからは石田隆行代表理事、奥田保男副代表理事、根岸徹副代表理事、市田隆雄副代表理事、西丸英治理事(広報・渉外担当)、

松原孝祐理事(学術担当)、谷畑誠司(JCRTM開催理事)、錦成郎事務局長の8人が参加し、対面とWebによるハイブリッド方式で開催されました。

上田会長からは、本年1月1日に発生した能登半島地震への本会の支援活動、中医協における今後の動きなどを含めて年間事業の総括が報告されたことに続いて、(1)第41回日本診療放射線技師学術大会が、2025年9月12日(金)から14日(日)までの会期で福井駅前周辺で開催されることについて(2)医師の働き方改革のためのタスク・シフト/シェアに関するガイドラインについて(3)学生向けの告示研修の

準備進捗状況について——などが報告されました。

JSRTからは、石田代表理事のRadiological Physics and Technology誌のIF(インパクトファクター)獲得に伴った広報活動、内閣府の立ち入り検査などの年間事業の総括報告に続いて、(1)第51回秋季学術大会の開催報告(2)第80回総会学術大会の進捗状況の報告(3)第81回総会学術大会の進捗状況の報告(4)第82回総会学術大会・第53回秋季学術大会の大会長について(5)Nature誌への記事掲載について(6)コロナ禍収束に伴った国際活動について(7)本年度の謝金運用について——などが報告されました。

その後、共通の議題として、(1)第1回日本放射線医療技

術学術大会の進捗や両団体での倫理規程に関する意見交換(2)生殖腺防護(性腺防護)の取り組みの現状やDRLs2025発出に向けた準備について(3)両会の地域区割りの異なる現状について(4)2024年度合同市民公開講座について——などが話し合われました。

とりわけ本年10月31日(木)から11月3日(日・祝)の会期で合同で開催される、第1回日本放射線医療技術学術大会については活発な意見交換が行われ、両会が緊密に協力して、開催に向けて懸案の解決に努めることが確認されました。

今回は、2024年7月ごろにJSRT事務局での開催を予定しています。(文責：江端 清和)

2023年度 第3回消化管造影セミナー 開催される (Web開催)

2024年2月20日(火)午後7時より、2023年度第3回消化管造影セミナーがWebで開催されました。今回は「X線TV装置の性能評価と精密胃X線検査」をテーマとさせていただき、約100人の皆さまにご参加いただきました。

講演1として、東海大学医学部附属八王子病院放射線技術科の青木聡技師より「消化器撮影領域における性能評価」についてご講演いただきました。X線TV装置における物理評価を中心に、特に、X線透視画像の物理評価の考え方・取り組みは、非常に興味深いものでした。

次に講演2として、JCHOさいたま北部医療センター放射線科の鶴沼清仁技師より「有管法による精密胃X線検査法」についてご講演いただきました。診療放射線技師による胃ゾンデ(カテーテル)を使用した術前精密検査の具体的な手技について詳しく解説いただきました。昨今の診療放射線技師法改正における告示研修、業務タスク・シフト/シェアとリ

ンクしてとても興味深い内容でした。

最後は、講演3[医師講演]として、東京都立がん検診センター消化器内科部長の小田丈二先生より「医師が求める精密胃X線検査画像」についてご講演いただきました。小田先生は、胃や大腸における消化管領域では非常にご高名な先生でありながら、われわれ診療放射線技師へのご指導においてもいつも大変お世話になっております。今回は術前検査の手技や読影について、とても分かりやすくご説明いただき、大変きれいな画像、多数の症例もご供覧いただきました。勉強になりました。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

消化管画像分科会では、2024年度も皆さまに有意義なセミナーを企画開催していく所存です。引き続き多くの皆さまのご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願い致します。

(みさと健和病院 消化管画像分科会 安藤 健一)

2023年度 第5回チーム医療推進学会 開催される (ハイブリッド開催)

2024年2月25日(日)、本会上田会長が代表を務めるチーム医療推進協議会主催の第5回チーム医療推進学会がハイブリッドで開催されました。当学会の第3回は本会が主催団体として開催していたものです。

今回の大会プログラムは、特別講演を「第8次医療計画の方向性」と題して、厚生労働省医政局地域医療計画課の松本課長補佐にご講演をお願いしました。また2024年が医療・介護・障害福祉の3つの報酬が同時に改定される6年に1度のトリプル改定の年であることから、中央社会保険医療協議

会での議論を踏まえて、上田会長より「2024年度診療報酬改定」と題する緊急講演がありました。シンポジウムでは基調講演として、厚生労働省労働基準局安全衛生部 治療と仕事の両立支援室の佐藤係長にご講演いただきました。

一般演題は2セッション8演題で、各医療関係職種の日常業務の合間の一工夫や経験報告といった、患者を中心としたチーム医療における職種間連携などについて発表がありました。

最終集計によると有料視聴参加登録は162人となり、診療関係職種の中で診療放射線技師の登録者数は2番目

に多い25人とのことでした。診療放射線技師各位に積極的に視聴いただいたことは大変ありがたく、ご参加いただいた皆さまには御礼申し上げます。

2024年度は日本医療ソーシャルワーカー協会が、2025年

度は日本臨床衛生検査技師会が主催団体となり開催される予定です。

今後の開催に当たっては、本会ホームページのお知らせ欄などを通じて告知させていただきます。(文責：江端 清和)

2023年度 第2回JART-JIRA懇談会 開催される (ハイブリッド開催)

2024年2月27日(火)、2023年度第2回JART-JIRA(日本画像医療システム工業会)懇談会が日本橋ライフサイエンスビルディングにおいて、ハイブリッドで開催されました。

懇談会は、JIRAからは山本章雄会長、稲葉潔業務執行理事、鍵谷昭典経済部会長、松尾秀隆法規・安全部会長、横田則昭総務部長、大塚正明事務局長が、本会からは上田克彦会長、江藤芳浩副会長、富田博信副会長、児玉直樹副会長、川守田龍理事 園田優理事 堀住雄策事務局長が出席して行われました(役職は2月27日現在)。

冒頭、両会長によりあいさつが交わされ、報告事項として、JARTからは、(1)第40回日本診療放射線技師学術大会(第1回日本放射線医療技術学術大会)について(2)JART

Vision 2040について(3)第41回日本診療放射線技師学術大会(福井)について(4)令和6年度診療報酬改定要望について(5)放射線技師議連への要望と厚生労働省の対応(6)第39回日本診療放射線技師学術大会について(7)令和6年度診療報酬改定の経緯と雰囲気(8)鉛シールド廃止声明について——などが、それぞれの担当より報告されました。

JIRAからは、(1)最近のJIRAの活動状況について(2)経済部会報告：経済部会におけるトピックス紹介(3)法規・安全部会報告：最近の医療機器規制の動向について——などが報告されました。

両会から議題提案はなされず、穏やかな雰囲気の中、懇談会は終了しました。

2023年度 第2回マネジメント研修会(LV3) 開催報告

人材育成委員会 委員長 中村 泰彦

2024年2月17日(土)、国立がん研究センター研究棟で「第2回マネジメント研修会(LV3)」を開催しました。27人の参加予定でしたが体調不良などもあり、24人の方に受講していただきました。

この研修会は全てグループワークを中心にした研修会で、昨年に引き続きミドルクラス(マネジメントリーダーLV3)の研修会として開催しました。今回の内容は、コーチング・アサーションなどのコミュニケーションについての実践、KYT、リーダーシップ・ファシリテーション、PDCA、バランス・



スコアカードといった講義をしていただきました。参加者は初対面で緊張がありましたが、最初のアイスブレイクにより緊張もほぐれ、グループワークが進むにつれてさらに活発な意見交換ができ、グループ内のチームワークもできたようでした。

終了後の参加者に感想を聞くと、ここで学んだことを職場に持ち帰り実践したいとの前向きな意見を頂き、改めて講義中心ではなく、グループワークの大切さを実感しました。次年度も皆さまのご意見を取り入れ、計画していきたいと思えます。対象クラスを明示していますが、若い方も役職に関係なくご参加ください。



2023年度 放射線被ばく相談員フォローアップ 講習会 開催報告 (Web開催)

放射線被ばく相談員分科会 分科会長 五十嵐 博

2024年2月23日(金・祝)午後1時30分から、2023年度放射線被ばく相談員フォローアップ講習会をWebで開催致しました。この日は3連休初日の午後にもかかわらず、全国から79人と多くの方のご参加がありました。今回のテーマは「メールによる被ばく相談」でした。

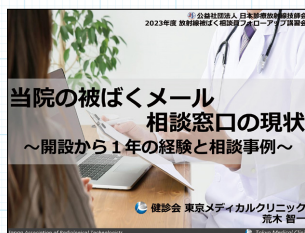
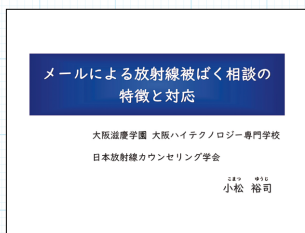
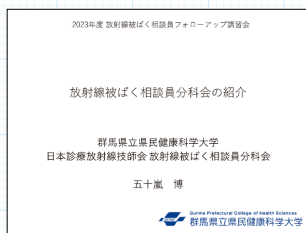
分科会長による開講式、分科会の紹介の後、大阪ハイテクノロジー専門学校の小松裕司先生による「メールによる放射線被ばく相談の特徴と対応」では、対面型の相談業務との共通点や相違点などを分かりやすくお話しいただきました。

東京メディカルクリニックの荒木智一先生の「当院の被ばく

メール相談窓口の現状～開設から1年の経験と相談事例～」では、窓口開設でご苦労された点や工夫された点、チャットボットの活用、相談事例の紹介がありました。これから相談窓口の開設を検討している方には大きな参考になったと考えます。

小張総合病院の笹崎俊宏先生の「放射線被ばく相談の運用とメール相談事例」では、窓口開設でご苦労された点や工夫された点、相談事例の紹介がありました。荒木先生と笹崎先生のご講演は、これから相談窓口の開設を検討している方にとっては、とても参考になったのではないのでしょうか。

受講された方々が全国の臨床現場で活躍することで、被ばくに関する不安や悩みを抱える患者さまやそのご家族の助けになることを期待しております。



告示研修 開催報告

熊本県

一般社団法人熊本県放射線技師会 副会長 田上 真之介

2024年2月23日(金・祝)、熊本赤十字病院において、熊本県としては10回目の「令和3年厚生労働省告示第273号研修(告示研修)における実技研修」を開催致しました。定員である48人の受講者数で、ほとんどが県内の方ですが県外からも数人の受講がありました。毎回、早い段階で定員に達する状況が続いており、本研修への関心の高さがうかがえます。実技研修

会場の設営・撤収には毎回多くの時間を費やし労力も多大ですが、回を重ねるたびに効率的な運営ができるようになりました。熊本県ではすでに静脈路確保に取り組んでいるファシリテーターが数人在籍しており、実践経験を基に具体的で分かりやすい指導ができることから、積極的に質問される受講者の方も多く見受けられ、実り多い研修になっていると思います。



今後も多くの方々に受講していただけるよう、年間4~5回の開催を計画していきたいと思っております。最後になりましたが、会場を提供していただいた熊本赤十字病院関係者の皆さま、運営スタッフの皆さま、そして受講者の皆さま、JART事務局の皆さまに感謝を申し上げ、告示研修の開催報告とさせていただきます。

千葉県

一般社団法人千葉県診療放射線技師会 常務理事（教育委員） 伊藤 等

2024年2月23日（金・祝）・24日（土）、千葉県鴨川市にある亀田総合病院で、2023年度7・8回目となる告示研修（実技）を開催致しました。千葉県では年8回のうち6回を千葉市内（千葉大学医学部附属病院）で開催し、残りの2回は千葉市から遠方となる地域で開催するようにしています。県内とはいえ、スタッフは始発電車で間に合わないため、前泊が必要となりました。また1日目が南房総ではめったにない雪の予報となったこともあり、不安な思いで初日を迎えることとなりました。

初めての開催場所でしたが、1年前から下見や話し合いなど綿密な準備をしてきたことで、スムーズな運営ができました。しかし、開催場所に関わらず問題となるのが、午前中のビデオ講義の場所から実習場所への移動です。病院施設での開催のため、受講スペースと実習スペースが離れており、迷わないための対応が必要となりますが、開催施設の皆さまのご協力により、問題なく移動することができました。



両日とも46人の申し込みがあり、計91人が修了となりました。昨年度までは半数以上が県外者でしたが、本年度は7割以上が県内の受講者となっています。まだまだ県内の未受講者は多いと思われるので、2024年度も8回の開催を予定しています。

最後になりますが、ファシリテーターをはじめ開催スタッフの皆さま、会場をご提供いただきました亀田総合病院の皆さまに、心より感謝を申し上げます。

佐賀県

一般社団法人佐賀県放射線技師会 会員（ファシリテーター） 馬渡 翼

2024年2月23日（金・祝）・24日（土）、国立病院機構佐賀病院で、2023年度における第3回・第4回の告示研修（実技）を開催致しました。ファシリテーターを増員したことで、実技指導の時間を十分に確保することができ、受講者全員が基礎的な知識を学んだ上で、現場を想定した実践的な技術を習得することができました。また会場設営の準備から片付けまでの一連の流れでは、同一会場での開催回数を重ねた経験や施設スタッフの協力もあり、作業の効率化を図ることができました。



今回は、佐賀県内だけでなく県外からの参加も多く、受講者間での情報交換も多々見受けられ、交流や連携を深める場につながりました。佐賀県放射線技師会では、告示研修を受講する会員に対して受講費の助成事業を行っております。順調に県内受講者が増加し



ていることから、助成事業による受講促進の効果が表れていると考えます。今後もより多くの方が受講できますよう、ホームページなどでの研修の告知、開催地域の変更や県内施設受講者数開示の検討を行う予定です。

最後に、この場をお借りして、講師の先生方をはじめ、会場を提供していただいたご施設（国立病院機構佐賀病院）とスタッフの皆さま、そして受講者の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

JARTISから領収書の発行が可能となっております!

会員情報システム（JARTIS）よりご入金いただいた会費、講習会、セミナー、学術大会の費用・参加費について、会員ご本人による領収書の発行が可能となっております。詳細は、会誌5月号のお知らせをご参照ください。

INFORMATION

2023年度 診療放射線技師基礎講習 (会場型) 基礎技術コース「X線CT検査」 開催報告

公益社団法人広島県診療放射線技師会
会長 木口 雅夫

2024年2月25日(日)、広島大学病院臨床管理棟3階大会議室で診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース「X線CT検査」を開催しました。3連休の最終日であるにもかかわらず、広島県を中心に中四国地域、東は奈良県、西は長崎県、南は鹿児島県から38人の参加がありました。比較的若い方の受講が多く、CT検査に関わることが多いことや関心の高いことが

感じられました。会場型講習会開催ガイドラインに基づいた会場開催では、CTエキスパートの講師から対面による生の声で講義を受けることができ、多くの方がメモを取りながら受講され、前向きな熱意が感じられました。

講義内容は、通常のカリキュラムに沿った撮影技術、造影関連、画質・性能評価、線量特性、3D画像処理、患者接遇などの基礎的な内容、さらに逐次近似画像再構成、ディープラーニングを利用した画像再構成、Dual energy CTなどの新しい技術についての解説に加えて、多くの臨床画像が供覧

されました。受講された方には、基本的な知識と技術のスキルアップ・ブラッシュアップになったものと考えます。明日からの診療に役立つことを祈念致します。

最後に、今回、講師を快く引き受けていただきました先生方には、改めて感謝申し上げます。



2024年度 日本診療放射線技師会奨学生の募集について

本会教育奨励金貸付規程に則り、2024年度日本診療放射線技師会奨学生を、以下の通り募集します。

- 募集人数：2人
- 応募期間：2024年5月1日(水)から6月21日(金)まで(必着)
- 貸付金の金額：500,000円(1人当たり。貸付額は一括振込み)
- 貸付期間：大学院に在学する期間で、認定された年度から在籍している年度まで
- 申込資格：診療放射線技師としてさらなる知識と技術を習得するため、大学院に入学している者で、他機関の奨学金を受けていない者
- 提出書類：次の書類を本会事務局に提出すること
(1) 奨励金貸付申請書 (2) 履歴書(写真添付) (3) 前年度収入証明書 (4) 入学証明書 (5) 住民票
- 申請手続き：本会ホームページより奨励金貸付申請書をダウンロードし、提出書類一式を送付してください。
- 返済：承認された奨励金は、卒業後1年経過した後、5年以内の返済計画を提出していただきます。
詳細はホームページより教育奨励金貸付規程をご確認ください。
- 申請書送付先・お問い合わせ先：〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル22階
公益社団法人日本診療放射線技師会 奨学生募集係

INFORMATION

診療放射線技師のためのフレッシューズセミナーのお知らせ

プログラムは、エチケット・マナー・医療安全・感染対策・気管支解剖・胸部撮影基礎(都道府県により違いあり)など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は、都道府県技師会までお問い合わせください。

フレッシューズセミナー開催予定：

新潟 5月11日(土) 茨城 5月12日(日) 和歌山 5月19日(日) 徳島 5月19日(日)
埼玉 5月26日(日)

INFORMATION

INFORMATION

第6回 第1回日本放射線医療技術学術大会 (1st JCRTM)

第40回日本診療放射線技師学術大会 (40th JCRT)

第52回日本放射線技術学会秋季学術大会 (52nd Autumn Scientific Congress of the JSRT)

沖縄への道 Go To OKINAWA

運営委員 上江洲 千博

(一般社団法人沖縄県放射線技師会 理事)



沖縄県の周辺離島 (くめしま)

直近の記事は沖縄本島についての紹介でしたが、今回は周辺の離島について紹介させていただきます。沖縄県には有人無人合わせて54の離島があり、その中で有人島は38となっており、県の人口の約9%が離島で生活しています。また意外に思われるかもしれませんが離島の面積は1,024km²で、県全体 (2,282km²) の半分近くを占めています。そんな離島の中で、今回は、私の出身地でもある久米島について紹介します。

久米島は、沖縄本島から西に100kmの位置にあり、人口はおおよそ7,200人で、久米島本島と、米軍の射爆撃場となっている鳥島(とりしま)、さらに県内唯一の活火山島である硫黄島(いおうとりしま)など5つの島から構成されています。沖縄本島からのアクセスとして飛行機とフェリーがあり、弾丸ツアーで日帰りも可能です。

主な産業はサトウキビで、島内にはサトウキビ畑が至る所にあります。12月から3月までは製糖期と呼ばれ、サトウキビの収穫時期となっており、製糖工場もフル稼働の時期です。私も久米島に住んでいた頃は、製糖期にサトウキビの収穫作業(沖縄方言で「ウジトシー」)の手伝いをしていました。この「ウジトシー」、かなりの重労働で、憂鬱な気持ちで畑に向かっていたので今でも覚えています。



畳石

観光としては、白い砂だけでできている美しいビーチ「はての浜」や、溶岩が冷え固まってできた自然の造形美「畳石」などがあり、また観光スポットとは言えませんが、私の一押しとして久米島は沖縄本島よりも星がかなりきれいに見えるので、久米島を訪れた際はゆっくり星を眺めていただきたいです。

島のグルメとしては「久米島そば」があり、島で養殖されている車海老を使用した車海老そばがお気に入りです。おいしい居酒屋も何件もあるので、夜も楽しめること間違いなしです。この記事をきっかけに皆さんが離島に興味を持っていただけたら幸いです。

先ほど挙げたように、沖縄本島から久米島への移動手段は飛行機かフェリーですが、古宇利島(こうりじま)や瀬長島(せながじま)など、本島と橋でつながっている離島は9つあるので、JCRTMでお越しの際はぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



はての浜



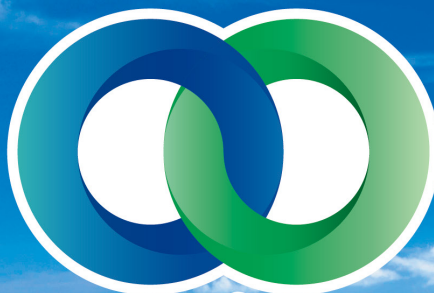
車海老そば

JCRTM2024

第1回 日本放射線 医療技術学術大会

第40回日本診療放射線技師学術大会
第52回日本放射線技術学会秋季学術大会

会場 沖縄 コンベンションセンター
会期 2024年 10月31日(木) ~ 11月3日(日)



ゆいまーる

診療放射線技術の共創
All Japan
Radiological Technology



JART

■ 大会長：上田 克彦
■ 実行委員長：富田 博信



JSRT

■ 大会長：白石 順二
■ 実行委員長：奥田 保男

【お問い合わせ先】 第1回 日本放射線医療技術学術大会運営事務局

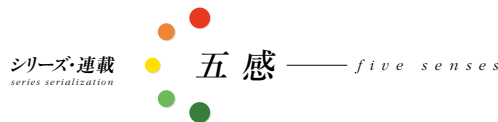
所在地：株式会社リンクージ沖縄内 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 2-8-8-2F

TEL：050-3666-2460 / FAX：098-890-1921 / E-mail：jcrtm2024@linkage-okinawa.co.jp

HP：https://www.linkage-okinawa.co.jp/jcrtm2024



スムーズな職場復帰へのサポート体制の必要性



昔の就職環境では男性が圧倒的に多い職種でしたが、さまざまな状況で、皆さまの職場では女性の診療放射線技師の需要が高まり、女性就業者やパートタイムで働く技師も増えていませんか？ 個人のニーズに合わせて勤務時間を調整できる柔軟な労働時間、子育てや家庭の都合に合わせた勤務スケジュールが提供されることが望まれます。

そういった環境の中、特に、長期休暇後の復帰技師には復職に向けた準備も必要です。一般的環境においては、経験豊富な先輩技師が新たに復帰した技師をサポートし、現場での業務やプロセスに関するアドバイスや指導を提供することで、現場復

帰を目指すためのスキルアップのトレーニングによって円滑な復帰ができると思います。しかし、それができない小規模人数の現場においては、スムーズな復帰を目指して段階的なラダーを考えた学びの場のようなプラス研修も必要です。

この数年、「ゆとり世代」の特徴であるワーク・ライフ・バランスという考え方が普及してきたこともあり、プライベートを重視したライフスタイルが好まれる傾向にあります。

これからは、ブランク期間のある全ての診療放射線技師ができるだけ早く復帰し、長期的に活躍できる休職後の職場復帰プログラムとサポート体制の必要性があると考えます。(文責：後藤 吉弘)

5月・6月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- 放射線被ばく相談員講習会： Web開催 2024年5月26日(日)
- 消化管造影セミナー： Web開催 2024年6月25日(火)
- 骨関節撮影分科会セミナー： 京都 2024年6月29日(土)

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

■ 告示研修(実技研修)／業務拡大に伴う統一講習会／診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース(会場型)：
 本会ホームページの「ニュース・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

[e-ラーニング(ストリーミング方式)]

- 告示研修(基礎研修) 2026年3月31日(火)午後11時59分まで申し込み受け付け
 ※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー 2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
 ※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。
- 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全管理のための研修(在宅) 2024年5月13日(月)午前0時から12月20日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
 ※お申し込み成立の日から2025年1月26日(日)まで何度でも視聴いただけます。
- 認定資格の取得を目指す在宅講習受講生の募集 ・ラダーレベル3 2024年6月3日(月)午前0時から12月20日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
 ※お申し込み成立の日から各認定資格試験終了日前日まで何度でも視聴いただけます。
- 認定資格失効者講習会(在宅) 2024年6月3日(月)午前0時から12月20日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
 ※お申し込み成立の日から2025年1月26日(日)まで何度でも視聴いただけます。
- オンラインセミナー(在宅)：本会ホームページの「ニュース・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

※「診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナーのお知らせ」は7ページに掲載しています。

INFORMATION

Hybrid 開催 全ての医療従事者と患者さんのための MRI安全講習会

MRIの安全確保が叫ばれる理由

～明日は我が身～

MRIの安全管理について、わかりやすく解説します

<開催日時> 2024年6月8日(土) 13:30-16:30

会場 ビジョンセンター品川 品川

https://www.visioncenter.jp/shinagawa/

対象 医師、技師(放射線/臨床検査)、看護師、その他の医療職
 和病棟職員、医療安全関係者など大歓迎
 日本磁気共鳴専門技術者の方は対象ではありません

参加申し込みはこちらから
 https://forms.gle/3xpSo2RBpew8tNp27

1) MRI検査のリスクファクター-知らないときっと事故をおこす～ 高井病院 土井 司

2) 体内金属はなぜ危ないのか? 北里大学病院 小見 正太郎

3) 体外金属はなぜ危ないのか? つくば国際大学 坂井 上之

4) 患者さんを安全に導く手法 山形県立新庄病院 矢部 邦宏

日本磁気共鳴専門技術者認定機構 JMRTS

日本磁気共鳴専門技術者認定機構(JMRTS)によるMRI安全講習会が開催されます!

日本磁気共鳴専門技術者認定機構では、専門技術者ではない全ての医療従事者を対象にしたMRI安全講習会を企画致しました。専門技術者以外の医師、技師、看護師、事務職員など職種を問わず、なぜMRIの医療安全が必要なのか? ということを詳しく解説致します。幅広い職種の方のご参加をお待ちしています。

- 開催日時：2024年6月8日(土) 13:30～16:30(会場およびWebのハイブリッド開催)
- 会場：ビジョンセンター品川 204号
- 対象：医師、診療放射線技師、臨床検査技師、看護師、その他の医療職、病院事務員、医療安全関係者など大歓迎(日本磁気共鳴専門技術者の方は対象ではありません)
- 定員：会場 40人、Web 400人(締め切り：2024年6月6日(木)終日)
- 会費：無料

参加申し込みはこちらから→ <https://forms.gle/3xpSo2RBpew8tNp27>
 詳細は、日本磁気共鳴専門技術者認定機構 (<https://plaza.umin.ac.jp/~JMRTS>) をご参照ください。



事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
 ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。